



2014年度版
SOFT VOLLYBALL RULE

Q & A 集

一部訂正版(2014.7.22)

日本ソフトバレーボール連盟
審判規則委員会

目 次

A-用具とチームに関して

A1	ナンバーの無いユニホームで試合に参加できるか	4
A2	ユニフォームにチーム名を入れる規定はあるか	4
A3	ユニフォームのキャプテン・マークは腕章に変更できるか	4
A4	キャプテンマーク代用品の腕章(アームバンド)の規格・規定はあるか。	4
A5	キャプテンマーク代用品の腕章(アームバンド)は、チームキャプテンがベンチにいる間、ゲームキャプテンに渡し着用させるべきか	4
A6	監督を含め4人編成のチームの監督はタイム・アウトの要求は可能か	4
A7	監督がプレーヤーとしてコート上にいるが競技中断の要求はできるか	4
A8	タイム・アウトと競技者交代は連続しての要求は可能か	4
A9	チームキャプテンはベンチにいても、審判にポジションの確認行為が行えるか	5
A10	ゲームキャプテンが審判にポジションの確認行為が行えるタイミングは	5
A11	ゲームキャプテンは記録員に直接ポジションの確認を行えるか	5

B-サービスに関して

B1	サービス順を確認できるか	6
B2	サービス許可吹笛後にタイミングをとるためのドリブル行為は反則か	6
B3	サービスのためトスしたボールを打たずに床に落とし場合の取扱いは	6
B4	サーバーがボールを打つとき、他の3人がサーバーを相手方チームから見え難くするような行為は反則か	6
B5	コート内の空中で、サービスとしてボールがヒットされた場合は反則ですか	6
B6	エンドライン後方に2m以上の空間が有る場合でもサービスゾーンの拡大は出来ないか	6
B7	「サービス順の誤り」と「フットフォール」の反則が同時に発生した場合どちらの反則が優先するか	6
B8	サービスの順番が間違っていた時の処置は	7
B9	5・6年の部に出場している4年生以下の競技者は、ショート・サービス・ゾーンからサービスをすることが出来るか	7
B10	小学4年生以下の選手が、エンドライン後方からサービスを実行、エンドラインを踏み越したらフットフォールの反則となるか	7

C-ボールへの接触に関して

C1	ネットにボールを当てた選手自身が、続けてボールに触れることはできるか	8
C2	3回目に触れたボールがネットに当たり返って来た場合プレー継続は可能か	8
C3	アタックしたボールがネット上端と同時に相手方のブロックの手に当たり、ボールがコート区画線の外側に落ちた場合の判定は	8
C4	サービス・ボールをオーバーハンドもしくはアンダーハンド等、1回で返すのは反則か	8
C5	ネット上で同時に触れられたボールの判定は	8
C6	ボールコンタクト時のホールディングの基準は	8

D-ボールインとボールアウトに関して

D1	ボールが支柱の外側を通過した時のボールアウトの判定タイミングは	9
D2	支柱の外側を越えて相手方フリーゾーンに行ったボールを自コートに取り戻すことは可能か	9

目 次

D3	支柱に触れたボールの判定は	9
D4	ボールのアンテナ上空通過の判定は	9
D5	ボールがアンテナとネットに同時接触した場合の判定は	9
D6	ライン際に落下したボールの判定は、ボールの中心点で行うのか	9

E-ネット付近のプレーに関して

E1	ボールデット後に選手がネットに触れた場合の判定は	10
E2	インプレー中に選手がネットに触れることは全て反則か	10
E3	インプレー中に、選手がネット下を通り抜ける場合の判定は	10
E4	3回目で相手方チームに返球しようとしたボールが味方チーム側のネットに当たって、味方コート内に落下するまでの間に、相手方チームのブロッカーがネットに触れた場合はタッチネットの反則か	10
E5	ボールがネットに当たり相手チームの選手に当たった場合プレーの継続は可能か	10

F-オーバーネットに関して

F1	相手方コートに入りそうになったボールを、ネット上部に出した手で味方コートに戻した行為は、オーバーネットになるか	11
F2	ブロックをしようとして手がネットを越えて相手方チーム側に出たとしても、ボールに触れなければオーバーネットの反則にはならないか	11
F3	ネット上でボールの半分が相手方コート、半分が味方コートにある状況でブロックをした場合、オーバーネットの反則を取られる事はあるか	11
F4	スパイクした後、手がネットを超えた場合は反則となるか	11
F5	オーバーネットの判定基準は	11

G-パッシングザセンターラインに関して

G1	インプレー中に膝から足先までが相手側コート空間上に完全に出たが、相手側コートに接触していない場合、反則になるか	12
G2	手と足の範囲とは	12

H-ブロックに関して

H1	背が高い人がネットに近付いて白帯より上に手を出し、立っているだけでもボールが触れたらブロックになるか	13
H2	背が高い人がネットに近付いて相手方に背中を向け白帯より上に手を出し、立っているだけでもボールが触れたらブロックになるか	13
H3	相手からネット付近に高く帰って来たボールを、ネットの上端より上方で味方にトスを上げたプレーはプロットみなすか	13
H4	ブロックのタイミングが合わず、ブロッカーに触れたボールが味方へのトスのようになった場合の判定は	13
H5	ブロックしようとジャンプしたが、身体の全てがネット上端より低い位置にあり、ボールに接触した場合の判定は	13
H6	ブロックした際に、右手はネットより高く出るが、左手がネットより低い位置でボールに接触した場合の判定は	13
H7	チームの第1回目のボールへの接触は、ブロックによるボールへの接触を含むか	13

I-ハンドシグナル等に関して

I1	ワンタッチとボールアウトのハンドシグナルの使い分けの基準は	14
----	-------------------------------	-------	----

目 次

12	線審はライン判定、許与空間外のボール通過判定以外にも判定できるか	14
J-その他			
J1	セット毎にスターティングポジションを変更することは可能か	15
J2	「不当な要求であっても、競技に影響を及ぼさず、また、試合の遅延とならないならば拒否される。」とあるが、理解しやすく解説してほしい	15
J3	ベンチにいるチームキャプテンから不当な要求が繰り返された場合どうするか	15
J4	選手交代回数を越え、選手交代を要求した際の取扱いはどうするか。	15
J5	監督がベンチよりサービス許可の吹笛前にタイムアウトや選手交代を要求したが副審が気づかずインプレーになった場合はどうなるか。	15
J6	ゲームキャプテンからワンプレー毎にポジションの確認が行われた場合の措置はどうするか。	16
J7	審判に確認したポジションが間違っていて、アウトオブポジションの反則となった場合の責任は誰にあるか	16
J8	公式ハンドシグナルを用いず、口頭のみでの競技中断の要求は認められるか	16
J9	不当な要求行為への具体的な対処方法はどうするか	16
J10	遅延目的の要求とは、具体的にどのような行為か	17
J11	「質問」、「抗議」、「判定に対する執拗な話しかけ」の区別はどうつけるか	17
J12	試合中にプレーへの牽制や、判定に影響を及ぼすような行為とは	17
J13	罰則につながる不法な行為への具体的な処理はどうするか	17
J14	対戦チームが開始時間を過ぎても来ない場合の処置は	18
J15	例外的な選手交代を許可す前提条件は	18
J16	正規のタイムアウトと3分間の回復のためのタイムアウトの違いは	18
J17	副審の責務、注釈にある「・・・チームがコート競技者を残したい場合は、ラインアップシートと記録用紙を訂正し、これを認める。」とある内容の意味は	18
J18	試合中に手袋の着用は認められるか	19
J19	緊急にラリーを止められるのは主副審どちらか	19

A-用具とチームに関して

No.	質 問	回 答	ル ー ル
A1	ナンバーの無いユニホームで試合に参加できるか	できません。 ポジションや年齢等の区分確認上ナンバーは必要不可欠です。	Ⅱ-2-(4)-2)
A2	ユニフォームにチーム名を入れる規定はあるか	ルール上の規定はありません。 ユニフォームの規定は次の3点です。 ①統一された色と形であること。 ②胸部と背部に規定の大きさの番号を付ける。 ③チーム・キャプテンは胸部番号の下に規定の大きさのマークを付ける。	Ⅱ-2-(4)
A3	ユニフォームのキャプテン・マークは腕章に変更できるか	キャプテンマークは規定されています。 腕章は、「代用」として認められています。	Ⅱ-2-(4)-3) 注解③
A4	キャプテンマーク代用品の腕章(アームバンド)の規格・規定はあるか。	キャプテンマークの代用としての腕章の規格・規定はなく、運用として下記の条件を考慮ください。 ルールに準じて ①最低限ユニフォームと異なった色のもの。 ②けが防止上、ゴムやマジックテープ等で着用できるもの。 ③審判員から見てはっきり確認できるところに着用する。	Ⅱ-2-(4)-3)
A5	キャプテンマーク代用品の腕章(アームバンド)は、チームキャプテンがベンチにいる間、ゲームキャプテンに渡し着用させるべきか	下記の理由から、ゲームキャプテンに渡し着用させる必要はありません。 ①キャプテンマークの代用であり、ゲームキャプテンを示すものではない。 ②コート内の競技者からゲームキャプテンを指名する。	Ⅱ-2-(3)-3)
A6	監督を含め4人編成のチームの監督はタイム・アウトの要求は可能か	キャプテンを兼ねていない限り要求はできません。	Ⅱ-2-(2) Ⅱ-2-(3)
A7	監督がプレーヤーとしてコート上にいるが競技中断の要求はできるか	不当な要求として却下しますが、繰り返しの要求による不法な行為としての罰則適用に発展することを抑止するため、却下と合わせてゲームキャプテンが行うよう口頭指導します。 監督としての権利が行使できるのは、ベンチにいる時のみで、コート上から競技中断の要求を行えるのはゲームキャプテンだけです。	Ⅱ-2-(2)-2) Ⅲ-5-(4)-②
A8	タイム・アウトと競技者交代は連続しての要求は可能か	可能です。 ただし、競技者交代の同一中断中の連続した要求は認められません。	Ⅲ-5

A-用具とチームに関して

No.	質 問	回 答	ル ー ル
A9	チームキャプテンはベンチにいても、審判にポジションの確認行為が行えるか	<p>できません。</p> <p>チームキャプテンは、あくまでも試合中コート内にいる場合に限りゲームキャプテンとして権利の行使ができます。</p> <p>ベンチにいるチームキャプテンが確認を要求した際は、不当な要求として却下しますが、繰り返しの要求による不法な行為としての罰則適用に発展することを抑止するため、却下と合わせてゲームキャプテンが行うよう口頭指導します。</p>	<p>Ⅱ-2-(3)-2)</p> <p>Ⅲ-5-(4)-②</p>
A10	ゲームキャプテンが審判にポジションの確認行為が行えるタイミングは	ボールデッド後、サービス許可の吹笛までに行わなければいけません。	<p>Ⅲ-5-(3)-1)</p> <p>Ⅲ-5-(4)-①</p>
A11	ゲームキャプテンは記録員に直接ポジションの確認を行えるか	<p>記録員への確認行為は認められません。</p> <p>コート上にいるゲームキャプテンとして認められる行為であり、速やかな確認行為を行うには副審または主審に確認することになります。</p>	<p>Ⅱ-2-(3)-2)</p>

B-サービスに関して

No.	質 問	回 答	ル ー ル
B1	サービス順を確認できるか	できます。 ただし、ゲームキャプテンだけに認められた権利です。	Ⅱ-2-(3)-2)-③
B2	サービス許可吹笛後にタイミングをとるためのドリブル行為は反則か	反則ではありません。	V-1-注解①
B3	サービスのためトスしたボールを打たずに床に落とし場合の取扱いは	ボールを床に落とした時点でサーブ・ミスとなります。 ただし、小学生は1回だけ打ち直しができます。	V-1-(3)-1)注解②
B4	サーバーがボールを打つとき、他の3人がサーバーを相手方チームから見え難くするような行為は反則か	反則ではありませんが、意図的に、このような行為(スクリーン)をしていると判断したときは、 ①主審は口頭で注意を促す ②注意後も同様の行為を繰り返す場合はインターフェアの反則とします。	V-6-(15)
B5	コート内の空中で、サービスとしてボールがヒットされた場合は反則ですか	反則になりません。 サービスとしてボールをヒットした時に、コート(エンド・ラインを含む)やサービス・ゾーン外のフリー・ゾーンに触れていなければ反則になりません。	V-1-(3)-3) V-6-(2)
B6	エンドライン後方に2m以上の空間が有る場合でもサービスゾーンの拡大は出来ないか	可能です。 フリーゾーンは2mの幅は最小限であるということで、サービスゾーンはコート後方の壁まで使用できます。 ただし、多数のコートを区画するため、フロアシートやフェンスなどでフリーゾーンの範囲を示している場合、サービスゾーン後方のフロアシート上や区画フェンスの外側からのサービスの実行は認められません。	I-1-(1)
B7	「サービス順の誤り」と「フットフォール」の反則が同時に発生した場合どちらの反則が優先するか	「サービス順の誤り」を反則とします。 サービス実行者は、ラインに触れてサービスを実行した「フットフォール」の反則を犯す以前に、サービス順番を間違えてサービスを実行した「アウトオブポジション」の反則が起きている。 また、サービス実行時の「フットフォール」の反則やサービスチームのアウトオブポジションと相手方チームのアウトオブポジションの反則が同時に場合は、サービス側の反則として判定します。	Ⅲ-4-(1) V-1-(3)-4) V-1-(3)-5)

B-サービスに関して

No.	質 問	回 答	ル ー ル
B8	サービスの順番が間違っていた時の処置は	<p>①相手方チームにサービス権と1点を与える</p> <p>②間違ったチームのポジションを正しいものに戻す。</p> <p>③間違いに気づかず、連続して得点が入った場合は、間違ったサーバーがサービスを打って得たそのチームの点数のみを取り消し、相手側のチームの得点は有効として取り扱う。</p>	V-1-(2)
B9	5・6年の部に出場している4年生以下の競技者は、ショート・サービス・ゾーンからサービスをすることができるか	<p>できません。</p> <p>ルール上、ボール、ネットの高さの規格が違うため、4年生以下の競技者が5・6年の部に出場できるとは規定していません。</p> <p>しかし、大会によってはルールを準用し、認めている場合があります、この場合はショート・サービス・ゾーンからのサービスを認めています。</p>	
B10	小学4年生以下の選手が、エンドライン後方からサービスを実行、エンドラインを踏み越したらフットフォールの反則となるか	<p>反則ではありません。</p> <p>小学生4年生以下の場合、サービスをするために踏み切ったとき、そのゾーンを区画しているショートサービスライン、サイドラインを踏んだり踏み越してはいけないが「エンドライン」は除かれています。</p>	V-1-(3)-4)

C-ボールへの接触に関して

No.	質 問	回 答	ル ー ル
C1	ネットにボールを当てた選手自身が、続けてボールに触れることはできるか	できません。 ドリブルの反則となります。 ネットにボールが当たっても、1人の選手が明らかに2度続けてボールに触れる事はできません。	V-2-(2) V-6-(9)
C2	3回目に触れたボールがネットに当たり返って来た場合プレー継続は可能か	できません。 3回目にボールに触れた選手自身が続けてボールに触れた場合はドリブルの反則になります。 他の選手がボールに触れた場合はオーバータイムスの反則になります。	v-2-(1) V-2-(2) v-6-(7) V-6-(9)
C3	アタックしたボールがネット上端と同時に相手方のブロックの手に当たり、ボールがコート区画線の外側に落ちた場合の判定は	ブロッカーにボールは触れており、 ①アタック側のコート外に落下した場合はブロックのボールアウトになります。 ②ブロック側のコート外に落下した場合はブロックのワンタッチとなります。	
C4	サービス・ボールをオーバーハンドもしくはアンダーハンド等、1回で返すのは反則か	反則ではありません。 相手方がサービスしたボールを、ネット上端より完全に高い位置からアタックヒットまたはブロックを完了した時点で反則となります。	V-3-(1) V-4-(2) V-6-(5) V-6-(6)
C5	ネット上で同時に触れられたボールの判定は	【前提条件】 相手のアタックしたボールがブロッカーの身体に触れたケース ①ボールがアタックしたチームのコート外に落下した場合、ブロックアウト ②ボールがブロックしたチームのコート外に落下した場合、ワンタッチ ③ボールが選手とアンテナ単独に同時に触れた場合、ブロックアウト 【前提条件】○前提条件 双方の選手が同時にボールに触れたケース ①そのボールがコート外に落下した場合、落下した側のコートチームのポイント ②そのボールがアンテナ単独に触れた場合、ダブルファール	V-2-(6) V-6-(14)-②
C6	ボールコンタクト時のホールディングの基準は	ボールコンタクト時に、明らかにボールが身体上で止まるようなプレーがあったときです。 ホールディングなどのハンドリングの基準は、試合のレベルに応じて緩和されることが望ましく、掴んだり、投げたりの極端な場合を除き、反則とすべきではありません。	V-2-(5) V-6-(8) V-2注解②

D-ボールインとボールアウトに関して

No.	質 問	回 答	ル ー ル
D1	ボールが支柱の外側を通過した時のボールアウトの判定タイミングは	ボールが完全に通過した時点です。	V-5-(2)-③
D2	支柱の外側を越えて相手方フリーゾーンに行ったボールを自コートに取り戻すことは可能か	できません。 ボールが2本のアンテナまたは、その想像延長線を通り過ぎなかった場合はボールアウトになります。	V-5-(2)-③
D3	支柱に触れたボールの判定は	ボールデットにはなりません。 ボールがネット上方のアンテナのみに触れた場合ボールアウトになります。	V-5-(2)-② 第6図 注解
D4	ボールのアンテナ上空通過の判定は	ボールがネット上を完全に通過したか、通過してないかは判定基準ではなく、ボールがアンテナ(想像延長線を含む)単独に触れた時点でボールアウトになります。	V-5-(5)②③ 注釈②
D5	ボールがアンテナとネットに同時接触した場合の判定は	ボールデットにはなりません。 ボールがネット上方のアンテナのみに触れた場合ボールアウトになります。	V-5-(2)-② 注解②
D6	ライン際に落下したボールの判定は、ボールの中心点で行うのか	ボールが接触した点で判定します。 ボールがコート区画線を含むコート内に接触したときはボールイン、ボールがコート区画線の完全に外側の床に接触したときはボールアウトです。	V-5-(1) V-5-(2)-① 第7図

E-ネット付近のプレーに関して

No.	質 問	回 答	ル ー ル
E1	ボールデット後に選手がネットに触れた場合の判定は	インプレー中ではないため反則になりません	V-6-(10)
E2	インプレー中に選手がネットに触れることは全て反則か	タッチネットの反則です。 ソフトバレーボールでは、インプレー中に選手がネットに触れ場合はタッチネットの反則となります。 ただし、ネット越しに打ち込まれたボールでネット膨らみ相手選手がネットに触れた場合は反則になりません。	V-6-(10) V-6-注解①
E3	インプレー中に、選手がネット下を通り抜ける場合の判定は	①ネット下部に選手の身体の一部が触れた場合はタッチネットの反則になります。 ②相手コートの一部に選手の身体の一部が触れた場合はパッシングザセンターラインの反則になります。 ③相手チーム選手に触れ場合はインターフェアの反則になります。	V-6-(10) V-6-(12) V-6-(15) 注釈
E4	3回目で相手方チームに返球しようとしたボールが味方チーム側のネットに当たって、味方コート内に落下するまでの間に、相手方チームのブロッカーがネットに触れた場合はタッチネットの反則か	タッチネットの反則です。 ボールが規定回数で返らないことは予測できますが、まだイン・プレー中であることから相手方チームのブロッカーのタッチ・ネットの反則となります。	V-6-(10) V-5
E5	ボールがネットに当たり相手チームの選手に当たった場合プレーの継続は可能か	可能です。 ボールがネットに当たったことにより、相手チームの選手がネットに触れても反則にはなりません。	

F-オーバーネットに関して

No.	質 問	回 答	ルール
F1	相手方コートに入りそうになったボールを、ネット上部に出した手で味方コートに戻した行為は、オーバーネットになるか	ボールと手、腕(身体)の接触点の位置で判定は変わります。 ①ボールと手、腕(身体)の接触点が、完全に相手方コート空間上にあれば、オーバー・ネットの反則になります。 ②ボールが半分以上相手コートに入っているも、手、腕(身体)の接触点がネットの上端膨らみを含めて味方側の空間上にあれば反則にはなりません。	V-4第5図 V-6-(11)
F2	ブロックをしようとして手がネットを越えて相手方チーム側に出たとしても、ボールに触れなければオーバーネットの反則にはならないか	オーバーネットの反則にはなりません。 手、腕(身体)の接触点がネットの上端膨らみを含めて味方側の空間上にあれば反則にはなりません。	V-4第5図 V-6-(11)
F3	ネット上でボールの半分が相手方コート、半分が味方コートにある状態でブロックをした場合、オーバーネットの反則を取られる事はあるか	ボールと手、腕(身体)の接触点の位置で判定は変わります。 ①ボールと手、腕(身体)の接触点が、完全に相手方コート空間上にあれば、オーバー・ネットの反則になります。 ②ボールが半分以上相手コートに入っているも、手、腕(身体)の接触点がネットの上端膨らみを含めて味方側の空間上にあれば反則にはなりません。	V-4第5図 V-6-(11)
F4	スパイクした後、手がネットを超えた場合は反則となるか	オーバーネットの反則にはなりません。 スパイク時、ボールと接触した手、腕(身体)は味方空間内であり、手からボールが離れた後に手だけが相手方コートに出たのでオーバーネットの反則にはなりません。	V-4第5図 V-6-(11)
F5	オーバーネットの判定基準は	ボールの空間上の位置ではなく、選手の手、腕(身体)とボールとの接触点がどちらのコート空間上にあるかで判定されます。	V-4-(1) V-4第5図 V-6

G-パッシングザセンターラインに関して

No.	質 問	回 答	ル ー ル
G1	<p>インプレー中に膝から足先までが相手側コート空間上に完全に出了が、相手側コートに接触していない場合、反則になるか</p>	<p>反則になりません。 片方の足(両足)または片方の手(両手)の一部がセンターラインに接触しているか、その真上に残っていれば反則にはなりませんが、それ以外の肘、膝及び頭などの身体の一部が相手コートに触れた場合は反則となるため、相手コートの空間への侵入では反則になりません。 ただし、相手方選手に接触し、プレーを妨害する行為があった場合には、インターフェアの反則となります。</p>	<p>V-6-(12) 注解② 第8図</p>
G2	<p>手と足の範囲とは</p>	<p>手は手首から指先までの範囲、足は踵からつま先までの範囲です。 なお、「足」は「Foot」で「脚」は「Leg」であり、ルールブックで規定する「足」とは区別されます。</p>	<p>V-6-(12) 注解② 第8図</p>

H-ブロックに関して

No.	質 問	回 答	ルール
H1	背が高い人がネットに近付いて白帯より上に手を出し、立っているだけでもボールが触れたらブロックになるか	ブロックとみなします。 相手から送られるボールを阻止するため、ネットの上端より上方で、ボールに触れた場合は全てブロックとなります。	V-4 V-4の注解
H2	背が高い人がネットに近付いて相手方に背中を向け白帯より上に手を出し、立っているだけでもボールが触れたらブロックになるか	ブロックとみなします。 体の向きに関わらず、相手から送られるボールを阻止するため、ネットの上端より上方で、ボールに触れた場合は全てブロックとなります。	V-4 V-4の注解
H3	相手からネット付近に高く帰って来たボールを、ネットの上端より上方で味方にトスを上げたプレーはブロックみなすか	ブロックとはみなしません。 トスはボールを阻止する行為ではないため。	V-4 V-4の注解
H4	ブロックのタイミングが合わず、ブロッカーに触れたボールが味方へのトスのようになった場合の判定は	身体の一部がネット上端より高いか低いかで判定します。 ①接触したときのボールの高さに関わらず、身体の一部がネット上端より高い位置にない場合はブロックとみなしません。 ②身体の一部がネット上端より上方にあり、実際にボールに触れた身体の位置がネット上端より低い位置でもブロックとみなされます。 ブロックには相手から送られるボールを阻止する行為で、「相手の行為を邪魔し、相手のしたいようにさせないこと、妨げること」です。	V-4 V-4の注解
H5	ブロックしようとジャンプしたが、身体の全てがネット上端より低い位置にあり、ボールに接触した場合の判定は	ブロックとはみなしません。 ブロックの形をしていても、接触したときのボールの高さに関わらず、身体の一部がネット上端より高い位置にない場合はブロックとみなしません。	V-4 V-4の注解
H6	ブロックした際に、右手はネットより高く出るが、左手がネットより低い位置でボールに接触した場合の判定は	ブロックとみなします。 身体の一部(右手)がネット上端より上方にあるので、左手がネット上端より低い位置でボールに触れていてもブロックとみなされます。	V-4 V-4の注解
H7	チームの第1回目のボールへの接触は、ブロックによるボールへの接触を含むか	含みません。 ブロックへの接触を除いて、最大限3回プレーすることができる。と規定しており、ブロック後の最初の接触を第1回目とします。	V-2-(1) V-2-(2) V-2の注解 V-4-(3) V-6-(7) V-6-(9)

I-ハンドシグナル等に関して

No.	質 問	回 答	ル ー ル
11	ワンタッチとボールアウトのハンドシグナルの使い分けの基準は	<p>【ワンタッチ】 ボールが選手に触れて味方コート外の床に触れたときです。</p> <p>【ボールアウト】 ①コート外にある物体に触れた場合（物体とは、天井やベンチ、ベンチにいる控え選手、審判、観客、スタンド、会場の壁など） ②隣のコートに入った場合 ③アンテナの外側を通過した場合</p> <p>ただし、物体に当たったケースでも、最終判定が選手にも分かりやすくするため、ワンタッチのシグナルを示す場合もあります。</p> <p>なお、ネット下空間を完全に通過し相手方コートに入った場合はボールアウトになりますが、ハンドシグナルは、パッシングザセンターラインと同じハンドシグナルを示します。</p>	<p>V-5-(2) V-6-(13) 付則Ⅱ-第2図</p>
12	線審はライン判定、許与空間外のボール通過判定以外にも判定できるか	<p>できません。 主審・副審にもそれぞれの責務があり、責務外の判定はできません。</p>	<p>付則Ⅰ-4-(2) 付則Ⅰ-4-(3) 付則Ⅰ-1-(2) 付則Ⅰ-2-(2)</p>

J-その他

No.	質 問	回 答	ル ー ル
J1	セット毎にスターティングポジションを変更することは可能か	可能です。 次セットの開始前にチームのラインアップシートを副審に提出する必要があります。	Ⅲ-3 Ⅲ-4-(2)-2)
J2	「不当な要求であっても、競技に影響を及ぼさず、また、試合の遅延とならないならば拒否される。」とあるが、理解しやすく解説してほしい	その試合を通して1回目の不当な要求は罰しないが拒否をします。 再発を防止するためゲーム・キャプテンを通して、そのチームに口頭で注意され、遅延の警告が与えられます。 同一チームが同一試合で繰り返した場合、その都度遅延の反則となり、相手チームに1点とサービス権が与えられます。	Ⅲ-5-(5) 注解
J3	ベンチにいるチームキャプテンから不当な要求が繰り返された場合どうするか	ゲームの遅延目的と判断され、軽度の不法な行為の罰則規定の取扱いをします。 不当な要求として却下しますが、繰り返しの要求による不法な行為としての罰則適用に発展することを抑止するため、却下と合わせてゲームキャプテンが行うよう口頭指導します。	Ⅱ-2-(3)-2) Ⅲ-5-(4)-②
J4	選手交代回数を越え、選手交代を要求した際の取扱いはどうするか。	不当な要求として却下します。 不当な要求の再発を抑止するため、規定の選手交代回数を越えていることを伝えます。	Ⅲ-5-(4)-② Ⅲ-5-(2)-1)
J5	監督がベンチよりサービス許可の吹笛前にタイムアウトや選手交代を要求したが副審が気づかずインプレーになった場合はどうなるか。	ベンチからの要求に気づかずにサービス許可の吹笛を行った場合、その要求行為は不当な要求として対応します。 不当な要求行為と取り扱われたことに対し、無作法・侮辱手的行為があった場合は、競技規則に示す不法な行為に対する罰則対応をとることとなります。審判員の確認行為のミスが罰則対応とならないよう注意してください。 審判員はサービス許可の吹笛前に両ベンチからの要求等がないかを確認することは必要不可欠な確認行為の一つです。 タイムアウトや選手交代を要求する場合は、主審・副審に公式ハンドシグナルに加え口頭で意思表示を行い、見逃されないようにすることも必要です。	Ⅲ-5-(3)-1) Ⅲ-5-(4)-① Ⅳ-1

J-その他

No.	質 問	回 答	ル ー ル
J6	ゲームキャプテンからワンプレー毎にポジションの確認が行われた場合の措置はどうか。	同行為が執拗に繰り返され試合の遅延につながると判断される場合、当該審判員はチームの監督やチームキャプテン(ゲームキャプテン)に口頭での注意を行い、その後も繰り返され場合は「遅延行為」として取り扱う旨を喚起し、罰則行為への発展を未然に抑制してください。 選手は競技規則を遵守しフェアプレーに基づいた行動を行うことが義務である以上、自らのチームのローテーション等はある程度把握しておくべきです。	Ⅲ-5-(4)-注釈 Ⅱ-2-(1)-1)
J7	審判に確認したポジションが間違っていて、アウトオブポジションの反則となった場合の責任は誰にあるか	チームの責任です。 審判はポジションの確認を行うだけで、チームのポジションの管理はチームの責任です。 主審・副審は不要な混乱を招かないよう、記録員にも確認を行的確なポジションを回答するよう心がける必要があります。	Ⅱ-2-(1)-1)
J8	公式ハンドシグナルを用いず、口頭のみでの競技中断の要求は認められるか	認められません。 不当な要求同様に却下します。 不当な要求の再発を防止するため、口頭での要求と公式ハンドシグナルを示すよう伝えま す。	Ⅲ-5-(3)-1)
J9	不当な要求行為への具体的な対処方法はどうか	不当な要求を求められた審判員は、公式ハンドシグナルには示されていませんが、片方の手の平を相手方に示し「止まれ」「やめなさい」という意味のシグナルを出してください。 合わせて、不当な要求の再発を防止するため、必要な指導を口頭で行ってください。 不当な要求を正当な要求と誤解し審判員が吹笛し、公式ハンドシグナルで要求手続きを開始した場合は、審判員の誤りであっても、要求したチームの不法な行為として処分されることになるので、審判員は冷静に対応してください。	Ⅲ-5-(4) 注解②

J-その他

No.	質 問	回 答	ルール
J10	遅延目的の要求とは、具体的にどのような行為か	<p>不当な要求として却下されたにもかかわらず、不当な要求を繰り返した場合です。 不当な要求ではないが、次のケースについても口頭指導後も改善が見られない場合を想定します。</p> <p>①正規の選手交代において、明らかにコートに入る準備ができていない場合 ②タイムアウト終了の吹笛後もコート上に選手が戻らない場合</p>	Ⅲ-5-(4) 注解②
J11	「質問」、「抗議」、「判定に対する執拗な話しかけ」の区別はどうつけるか	<p>具体的例としては次のようなケースが想定されます。</p> <p>①質問と異議の違い ワンタッチの判定に対して 「どの選手がワンタッチしたのか」……質問 「誰もワンタッチしていない」……抗議</p> <p>②判定に対する執拗な話しかけ 質問した回答を不満として質問を繰り返したり、異議を繰り返すような場合 なお、質問終了後、ポジションに戻りながら「へたくそ」等の暴言を確認した場合は、「競技参加者の品位を損なう言動」となり、直ちにゲームキャプテンに口頭指導を行い言動の再発を抑止してください。</p>	Ⅵ-1-(1)
J12	試合中にプレーへの牽制や、判定に影響を及ぼすような行為とは	<p>具体的例としては次のようなケースが想定されます。</p> <p>①床を叩いたり、床を強く踏み大きな音を出す ②ボールを床に叩きつける ③判定への異論として舌打ちする ④判定に対して執拗にアピールする ⑤相手に向かってガッツポーズをする</p>	Ⅵ-1-(1)
J13	罰則につながる不法な行為への具体的な処理はどうするか	<p>可能な限りプレーに重点を置くために、口頭での警告を主たる対応として、点数とサービス権が相手に移行する「無作法な行為」への発展を抑止するようにしてください。</p> <p>主審は副審と当該チームのゲームキャプテンを審判台近くに呼び寄せて口頭警告を行ってください。</p> <p>合わせて当該チームの選手やベンチに対しても注意するよう伝えることを促してください。</p> <p>内容を確認した副審は必要に応じて記録員に内容を伝え、記録用紙に必要事項を記載してください。</p>	Ⅵ-1-(1)

J-その他

No.	質 問	回 答	ル ー ル
J14	対戦チームが開始時間を過ぎても来ない場合の処置は	試合開始時刻よりプロトコルを開始し、エンドラインに整列時点でも来ない場合はそのチームを棄権扱いとし、試合を没収します。	付録2 プロトコル 試合開始前
J15	例外的な選手交代を許可す前提条件は	年齢区分や性別によって、チームを構成しているため、病気や負傷等やむを得ない場合、可能な限り「没収の処置」を避ける配慮をしますが、次の三つの前提条件が必須です。 ①正規の選手交代が完了している。 ②低年齢区分の選手が、高年齢区分の同性の選手に交代することはできない。 ③女性の選手が男性の選手に、男性の選手が女性の選手に交代することはできない。	Ⅲ-5-(2)-5) Ⅲ-5-(2)-6) Ⅳ-4 注解
J16	正規のタイムアウトと3分間の回復のためのタイムアウトの違いは	正規のタイムアウトは、チームに与えられた権限でありチームからの所定の手続きにより許可されるもので、回復のタイムアウトは、審判が例外的に与える特例措置です。	Ⅳ-4
J17	副審の責務、注釈にある「…チームがコート上の競技者を残したい場合は、ラインアップシートと記録用紙を訂正し、これを認める。」とある内容の意味は	安に「ポジション変更やローテーションの変更」を認めるものではありません。 スターティングラインアップ記載内容とコート上の選手の相違例は二種類あり、次の様な対応をします。 例1 スターティングラインアップ記載の選手がコート上にはいるが、ポジションが違う場合 ○ 副審がスターティングラインアップ記載のとおり選手を記載のポジションに移動させるが、ポジション、ローテーションの変更は認めません 例2 スターティングラインアップに記載されていない選手がコート上にいた場合 ○ 記載通りの選手に戻すが、チームが希望した場合に限り、記載されていない選手をコート内に残し、スターティングラインアップと記録用紙を訂正します この時の選手交代は正規の選手交代には含みません なお、これはうっかりミスとして、たまたまラインアップシートの記載と1名が違った場合であり、複数名の場合は全て正規の選手交代として処理します。	

J-その他

No.	質 問	回 答	ルール
J18	試合中に手袋の着用は認められるか	<p>医療用サポーター以外の着用は認められません。</p> <p>また、帽子の着用はユニホームの一つであり個人での着用は認められません。</p> <p>なお、ヘアバンドは髪を束ねるゴムひも等と同じ解釈をしてください。</p> <p>医療用であってもギブスの着用は認められません。</p> <p>また、眼鏡・指輪・ネックレス・ピアス等の着用による怪我の発生時における責任は着用者の自己責任となります。</p>	Ⅱ-2-(4)-1)
J19	緊急にラリーを止められるのは主副審どちらか	<p>危険と判断された場合は主審副審を問わずプレーを中断させます。</p> <p>選手の怪我等による中断を行った場合には、その後の措置として、負傷した選手チームにタイムアウトまたは選手交代を確認のうえ、その対応により、ゲームを再開します。</p>	<p>主審の責務 (2)-2)-②-(d)</p> <p>副審の責務 (2)-2)-⑥</p>